

## 会議録

|                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 会議の名称                                                                                                    | 令和6年度第1回西東京市子ども子育て審議会                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 開催日時                                                                                                     | 令和6年5月16日（木曜日）午前9時30分から11時30分まで                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 開催場所                                                                                                     | 田無庁舎5階502・503会議室                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 出席者                                                                                                      | <p>委員：森田会長、菅野副会長、井上委員、小野委員、鹿毛委員、加藤委員、小林委員、齋藤委員、酒見委員、篠原委員、島崎委員、武田委員、辻委員、中村委員、波田委員、平野委員</p> <p>事務局：遠藤子育て支援部長、菱川子育て支援課長、齋藤幼児教育・保育課長、河野児童青少年課長、宮崎子ども家庭支援センター長、栗林子育て支援課長補佐、岡田子ども家庭支援センター長補佐、倉本子育て支援課副主幹兼子ども相談係長、本谷子育て支援課調整係長、越川子育て支援課調整係主任、須藤子育て支援課調整係主事</p>                                                     |
| 議題                                                                                                       | <p>1 審議</p> <p>(1) 西東京市公立保育園のあり方について</p> <p>(2) 子育て・子育てワイワイプランの策定について</p> <p>①子育て支援ニーズ調査・子どもの生活実態調査の結果について</p> <p>②子どもワークショップについて</p> <p>③若者調査について</p> <p>2 その他</p> <p>令和6年度子ども子育て審議会スケジュール</p>                                                                                                             |
| 会議資料の名称                                                                                                  | <p>資料1 西東京市子ども子育て審議会委員名簿</p> <p>資料2 西東京市子ども子育て審議会西東京市公立保育園あり方検討専門部会名簿（案）</p> <p>資料3 西東京市子ども子育て審議会計画専門部会名簿（案）</p> <p>資料4 子育て支援ニーズ調査 結果報告</p> <p>資料5 子どもの生活実態調査 結果報告</p> <p>資料6 西東京市子どもワークショップ企画案</p> <p>資料7 子どもワークショップちらし案</p> <p>資料8 西東京市若者調査（案）</p> <p>資料9 若者調査案内文（案）</p> <p>資料10 令和6年度子ども子育て審議会スケジュール</p> |
| 記録方法                                                                                                     | <input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録                                                                                                                                                                                        |
| 会議内容                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| <p>1 審議</p> <p>(1) 西東京市公立保育園のあり方について</p> <p>事務局から資料2に沿って説明</p> <p>○森田会長：</p> <p>資料2のとおり、部会員としてよろしいか。</p> |                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |

○各委員：  
異議なし。

○森田会長：  
部会長は普光院部会員を指名する。

**(2) 次期西東京市子育て・子育てワイワイプランの策定について**  
事務局から資料3に沿って説明

○事務局：  
現在審議中の子育て・子育てワイワイプランの策定について、非常に多くの検討項目があるため、計画専門部会を設置、計画策定について部会内で議論をいただいている。  
次期計画の策定に当たり、今年度から若者施策についても審議する必要があることから、施策の対象となる方にもご意見をいただくために、選出区分が満18歳から満30歳未満の市民のお二人に計画専門部会に部会員として参加していただきたい。

○森田会長：  
資料3のとおり、部会員としてよろしいか。

○各委員：  
異議なし。

○森田会長：  
子育て・子育てワイワイプランの策定について、今年度初めての会議なので、どのようなスケジュールで検討をするのか、事務局から策定全体の説明を願う。

○事務局：  
若者調査、子どもワークショップについては、昨年度に引き続き実施内容や実施方法を検討し、若者調査は6月に、子どもワークショップは7月、8月に実施、また、若者調査の結果や、子どもワークショップで得られた子どもの意見は、夏ごろには取りまとめて結果の確認を予定している。

子育て支援事業計画に関わる、教育・保育の量の見込み・確保の内容については、7月頃から検討を始める予定である。

計画素案に関しては、各種調査結果を取りまとめながら、7月頃から基本理念・方針・施策体系の検討を行い、9月頃に基本施策の検討、10月後半から計画素案の検討を行い、12月にパブリックコメントと市民説明会を予定している。

また、今回の子育て・子育てワイワイプランは、子どもにもわかりやすく伝えるため、子ども版の作成を予定しており、10月以降に検討を始める予定である。

○森田会長：  
計画専門部会の検討状況について、部会長である小野委員から説明を願う。

○小野委員：

4月16日と25日に開催した計画専門部会の審議内容3点を報告する。

1点目は、子育て支援ニーズ調査と子どもの生活実態調査の結果について、委員それぞれのお立場の視点から、子どもへの支援や親への支援、子どもの生活環境などについて現状を確認した。

2点目は、子どもワークショップについて、昨年度に引き続き武蔵野大学の学生の協力をいただくということで、大学生の提案を元に、実施方法等を議論しながら、特に募集方法や告知のちらしに関して議論をした。

直接大学生と議論する機会もあり、計画専門部会員の井上委員、平野委員にも入っていただきながら、進めている。

3点目は、6月に実施予定の若者調査の設問と選択肢について、若者一人一人が自分らしく幸福な生活ができることや、自らの意見を表明し社会に参画できること、不安や悩みを抱えたり困ったりしても乗り越えたりすることができるようになるために、市としてどのような取組が必要なのかを明らかにするため、居場所や人との関わり方、社会参加や意見表明について議論した。

詳細は事務局から説明を願う。

#### ①子育て支援ニーズ調査・子どもの生活実態調査の結果について

事務局から資料4、資料5に沿って説明

##### ○鹿毛委員：

子育て支援ニーズ調査報告書や子どもの生活実態調査報告書を読んで、ショートステイの知名度が低いことに驚いた。市内に困っている子どもがいないならよいが、利用者にはリピーターは多く、それはその利用者だけではないことを示唆しているのではないかな。

##### ○森田会長：

調査では拠点事業の満足度は9割だが、利用希望者数が少ないことやファミリー・サポート・センターのニーズは高いが満足度が下がってきているというところも見える。

この調査の回答者である当事者が、西東京市でサービスを使い、生活プランを作って、主体的に生きていくことが大事である。

子どもの親も主体的に自分らしい人生を送っていけるように西東京市のまちづくりをしていきたい。そのために権利擁護の仕組みも作り、子ども家庭支援センターの整備も進めてきた。今後もこども家庭センターという形で福祉と医療の相互関係についても図っていく必要がある。

総合的な施策に取り組んでいるが、それが子どもの幸せや育ちにどのように生かされていくのが重要で、難しいところでもある。

本当に困っている子どもがこぼれていかないように、できるだけ早く、問題が深刻化する前に支えていかなければならない。

##### ○酒見委員：

子どもの生活実態調査の結果報告に生活困難度が高いほど「学校以外で勉強をしない」、「授業がわからない」とあったが、適切な就学相談ができていないことや固定学級の数が足りないというところも関係してくるのではないかな。

保護者に寄り添った支援が必要な家庭があるのではないかと感じる。

スマートフォンと携帯電話の所持率は全体よりも困窮層の割合が多い。ここにアクションをすれば、何か届けられる情報があるのではないかと。

また、学校に行きづらいと感じる子どもの居場所作りや学童の利用人数の多さなど施設の面も考えなければならない。

○森田会長：

中学校はどうか。

○辻委員：

小学校5年生の保護者で子どもの勉強はあまり見ないという回答について困窮層の割合が高い。子ども任せになってしまい、家庭での学習習慣を身につけられない子どもが多いと感じる。

また、本校の不登校の出現率が東京都の割合よりも高い。不登校の原因として、友だちとの人間関係以外に授業についていけないというものがある。これは中学校に入ってからというよりも小学校の段階で勉強についていけず、中学校でより勉強が難しくなり学校に行けなくなるという問題である。

放課後に授業の補完をしようと思っても、部活動があれば子どもはそちらを優先したので、なかなか学業のことができない。また、教員も放課後に継続的に計画的な学習指導ができるかという様々な雑務が入ってくるので困難である。

外部からの力が必要であると思うが、その場その場のボランティアではなくて、計画的・継続的に学習の力をつけていくことが課題だと思う。

○酒見委員：

困窮家庭の学習支援として、中学校での放課後の学習教室を塾に委託している事例はあるが、検討の価値があるのではないかと。

○森田会長：

施策を作るのはよいが、子ども・若者の実質的な思いを理解することが大切で、理解した後に、施策を考え「できることはすぐ行う」「できないことはなぜできないのかを還元する」というキャッチボールをしながら西東京市の政策を作り上げていくことを基本にし、「課題の早期解決」と「子どもが自分らしく生きていくこと」が重要である。優先順位をつけながら計画を作り、検討していきたい。

○小林委員：

私自身、学習に対する漠然とした拒否感があった。学習施設も重要だが「学ぶことの面白さ」を知るべきで、学ぶことの面白さを知らないと学習習慣が身につかない。スマホの所持率が高いことは問題ないのではないかと。

○齋藤委員：

スマートフォンでの学習について、私が高校生の頃にガラケーからスマートフォンに切り替わったが、今の子どもは小さいころから遊びや学習など様々なアプリに触れてきている。私のころは、携帯電話に触るときは遊びで、学習は冊子だったが、今はそのよ

うな「遊びと学習を切り替える仕組み」がなく、その仕組みがあれば変わっていくのではないか。

○森田会長：

他の自治体の各種調査結果ではスマートフォン・タブレット等の道具が当たり前になっている。スマートフォンで怖い体験をした子どもも出てきている。安全性をどう判断するかが求められている。

人間の暮らし方、価値観自体が変化しており、子どもにとってどうか、学びの時期や種類、交流の仕方などがどんどん変化する中で市民的な生活をどのように整備していくのか、学校教育とどのように連携していくのかを考えていかなければならない。

○平野委員：

スクールソーシャルワーカーがどのように動いているかを知りたい。学校、子育ての行政サービスについて何をどこに相談してよいかわからない。必要としている人が認知できていない問題がある。ソーシャルワーカーのような方が一人一人ケアしてくれて、伴走してくれるサービスがあればよい。

小林委員の子どもの学習についての意見には共感する。子どもには勉強がプレッシャーになっている。例えば学校も子どもがあらひのままて過ごせる、学習も遊びも自由でできる場所だったらと思う。

子育ての視点で考えたときの学校について、もう少し議論できればと思う。

○加藤委員：

本当は頑張りたいけど頑張れない子どもについて、その時の子どもの気持ちに応じた柔軟な対応ができる環境があれば自信や別の進路、人生の選択肢につながると感じる。どのような層の人も安心できるような環境づくりと、その環境の認知度を高めた方がよいのではないか。自己肯定感が下がっている子どもが、スモールステップで徐々に本来の力を引き出せるように家庭・地域・教育など様々なところが連携していければと思う。

○酒見委員：

やらされる学習から主体的に学習に取り組むスタイルに変えていくことが大事である。

○菅野委員：

乳児・幼児で発達障害の方はどのくらいいるのか。

○武田委員：

発達障害の要素を含んでいると見受けられる子どもは多い。子どもは生活習慣の中で生活体験を重ねて発達していくがその体験が弱く、また、乳児期の母子関係構築が必要だがその部分が希薄である。また、母も父も育児という初めての体験に戸惑い、育児困難を抱えることが増えている。乳児期の環境整備は重要である。

○森田会長：

昨年12月に国が「はじめの100か月の育ちビジョン」を出したが、一番大事なのは、子どもの権利の視点とアタッチメントである。関係性をどのように作るかは基本であり、それを全国展開で普及することがテーマである。市もこども家庭センターに作り替えていく際に、伴走は大きな課題である。かつては家族が担っていたが、地域でも担いながら家族というものの役割を位置付けていく必要がある。伴走の資源として児童館が中核になって継続的な支援をしていくことになるのではないかな。

子どもの権利擁護機関等のいろいろな形で構想としてはできてきている。学校の力と学校外の力、また、学童保育の午前中の場を利用することもあり、多様性をどのように地域で保証するか。そのためには学校外の場所がたくさんないといけない。子どもの場を増やしてきたが、その場を多様な形で協力し合いながら子どもが本当に幸せになれるような形で作り込んでいきたい。

## ②子どもワークショップについて

事務局から資料6、資料7に沿って説明

### ○小野委員：

市の5月15日号市報に記事を掲載し、チラシはこれから配布したい。子どもに集まってほしいので、皆様に広報のご協力をお願いしたい。チラシについて意見等をいただきたい。

### ○森田会長：

子どもに集まってもらって、みんなで議論しようという機運を高めたい。

様々な課題を抱えている子どもが発言してくれたらいいし、また、それをサポートすることで、大学生たちも育つ。

「意見を言う体験」「意見が丁寧に扱われる体験」が大切である。

小学校等で番外編を実施してもよいのではないかな。

### ○辻委員：

結果をフィードバックして、丁寧に扱ってもらえるということが子どものモチベーションになる。これが形骸化してしまっていてフィードバックがないと、子どもが参加しなくなるだろう。今回の初めて参加した子どもに対するフィードバックがほかの子どもに伝わっていけば、次の子どもの参加につながっていく。

### ○森田会長：

地元の大学が地元で場所を提供してくれて、そこに子どもが赴きまちについて考えることは、これからのまちづくりに重要なことである。

大人が多くいるとプレッシャーになるので、そうならないように見守ることが大事である。子どもが自由に発言できて、丁寧に扱われる体験にしたい。

## ③若者調査について

事務局から資料8、資料9に沿って説明

### ○酒見委員：

対象者4,000人に対し、どれくらいの回答を想定しているのか。

○事務局：

2割程度の回答率を目指している。

○酒見委員：

抽選による図書カードやクオカードの配布や、フェイスブックやInstagramを活用したかどうか。

○小林委員：

私は割と回答する方だが、自分の回りを考えると回答する者は思い浮かばない。

○森田会長：

都や他自治体の調査にも関わっているが、回答率は2～3割程度で、国の調査だと1割程度だろう。

○小野委員：

クオカード等の配布は市の予算だと厳しい。どのような方法なら回答するのか、小林委員・齋藤委員の意見が欲しい。

○齋藤委員：

私はInstagramで情報収集することが多くなっている。例えば市内のカフェ情報が得られる二次元バーコードを読み取り、調査に誘導するという方法もある。

○森田会長：

市にInstagramの公式アカウントはない。各種団体経由で回答の呼びかけをしていくことはあり得る。

○井上委員：

専門部会において西東京市で活動をしているインフルエンサーやユーチューバーに周知をお願いするという話はどうか。

○事務局：

西東京市PR親善大使の方から情報を発信するのはどうか。

○森田会長：

審議会なので特定の者に依頼するとはいえない。しかし、Instagramにアップする等も含め、はがきが届く方に回答を喚起する必要がある。

○平野委員：

はがきが届いた人しか回答してはいけないのか。例えば、市内の高校のイベントにブースを出し生徒会とタイアップし、回答してSNSでシェアしたら特典がもらえるというのはいかがでしょうか。市外の者が参加するかもしれないが。イベントや祭りにブースを出す

のほうか。

○森田会長：

調査の回答期限等の制約があるが、市内の高校への依頼や武蔵野大学との連携はあり得る。回答者を増やすための検討が必要である。

本件については、ここで結論を出す時間がないため、私に一任願いたい。できるだけ回答者数を増やす方法で、高校や大学との連携等を探りたい。

## ２ その他

### 令和６年度子ども子育て審議会スケジュール

事務局から資料10に沿って説明

○事務局：

次回の審議会の開催日時は、改めて連絡する。

○森田会長：

令和６年度第１回子ども子育て審議会を閉会する。

以上